

活用効果評価結果

公開版

令和2年度

東北地方整備局 / 新技術活用評価会議

NETIS 情報	開発目標	経済性の向上、周辺環境への影響抑制、その他(工期短縮)																			
	新技術登録番号	KT-160034- VE	区分	製品	有用な技術の位置づけ	—															
	分類	仮設工 — 仮設材設置撤去工																			
	新技術名	GAロードマット (傾斜地、軟弱地での仮設道路設置に威力を発揮 簡便なタイヤ泥落としへの応用も可能)																			
	比較する従来技術 (従来工法)	仮設アスファルト舗装																			
新技術の概要及び特徴	本技術は傾斜地や軟弱地の仮設道路に用いる鋼製のロードマットで、従来は仮設アスファルト舗装にて対応。本技術の活用により、仮舗装の設置・撤去が不要となるため、経済性の向上と工期の短縮及び再使用が可能となり産業廃棄物が発生せず、周辺環境の向上が図れる。																				
活用効果 評価	所見	<p>従来技術に比べて活用の効果は優れている。 また、多くの現場で良い評価を得ている。 なお、下記の理由により、経済性、工程、安全性、施工性、環境については従来技術より優れた評価を得ている。</p> <p>経済性: 仮設アスファルト舗装の設置・撤去が不要なため、施工費が削減される。</p> <p>工程: 仮設アスファルト舗装の設置・撤去が不要なため、工程が短縮できる。</p> <p>安全性: ロードマットの表面加工によりスリップ等による転落事故が防止できる。</p> <p>施工性: ロードマットを設置するだけの容易な作業により、施工性が向上する。</p> <p>環境: 産業廃棄物(舗装殻)の発生しないため、環境負荷が少ない。</p>																			
	次回以降の評価に 対する視点と評価の 必要性	活用効果調査の結果、活用現場の違いによる大きな差異は認められないため、情報種類記号を「-VE」とし、今後の活用調査、事後評価は実施しないものとする。																			
	留意事項																				
	活用効果調査表 における 改良点及び要望																				
活用効果 調査結果	対象 工事	1	道路改良工事	「北海道開発局」	(従来技術: 仮設アスファルト舗装)	施工者希望型(契約後提案)	R1														
		2	橋梁下部工事	「中国地方整備局」	(従来技術: 仮設アスファルト舗装)	施工者希望型(契約後提案)	R1														
		3	道路改良工事	「北海道開発局」	(従来技術: 仮設アスファルト舗装)	施工者希望型(契約後提案)	R1														
		4	河道掘削工事	「九州地方整備局」	(従来技術: 仮設アスファルト舗装)	施工者希望型(契約後提案)	R1														
		5	道路改良工事	「北海道開発局」	(従来技術: 仮設アスファルト舗装)	施工者希望型(契約前提案)	R1														
		6	築堤工事	「関東地方整備局」	(従来技術: 仮設アスファルト舗装)	施工者希望型(契約後提案)	R1														
		7	低水護岸工事	「関東地方整備局」	(従来技術: 仮設アスファルト舗装)	施工者希望型(契約後提案)	H31														
		8	整備工事	「関東地方整備局」	(従来技術: 仮設アスファルト舗装)	施工者希望型(契約後提案)	H30														
		9	築堤工事	「関東地方整備局」	(従来技術: 仮設アスファルト舗装)	施工者希望型(契約後提案)	H30														
		10	整備工事	「関東地方整備局」	(従来技術: 仮設アスファルト舗装)	施工者希望型(契約後提案)	H30														
		11	整備工事	「関東地方整備局」	(従来技術: 仮設アスファルト舗装)	施工者希望型(契約後提案)	H31														
		12	浚渫工事	「沖縄総合事務局」	(従来技術: 仮設アスファルト舗装)	施工者希望型(契約後提案)	H30														
		13	道路改良工事	「北海道開発局」	(従来技術: 仮設アスファルト舗装)	施工者希望型(契約後提案)	H30														
		14	道路改良工事	「北海道開発局」	(従来技術: 仮設アスファルト舗装)	施工者希望型(契約後提案)	H30														
		活用効果 調査結果	施工時 評価	ケース番号 および年度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	項目の 平均(点)	従来技 術(従来 工法) (点)	
経済性	C			B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	C		
工程	C			C	A	A	B	B	B	B	A	A	B	A	B	B			B	C	
品質・出来形	C			C	C	B	C	C	C	C	C	C	C	C	B	C	C			C	C
安全性	D			C	C	A	C	C	A	B	C	B	B	B	B	C	B			B	C
施工性	C			B	C	A	B	B	C	B	C	B	C	A	C	C				B	C
環境	C			B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B			B	C
その他	-			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			-	-
総合評価点		C	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B			B	C	
今後、当該技術を活用出来る 工事に活用したいか		今後是非活用したい			活用を検討したい			場合によっては活用 することもある			技術の改良を強く望む			優位性における判定							
		54%			32%			14%			0%			A 従来技術より大幅に優れる							
														B 従来技術より優れる							
														C 従来技術と同等							
														D 従来技術より劣る							
追跡調査の必要性		無し																			
追跡調査		-																			

